

# KOGA IDOL

今月の古河っ子

いいこが育つ古河



**水落えま ちゃん**  
(平成29年1月生まれ・下大野)

大好きなじいちゃんと諸川カラット公園で笑顔いっぱいのおえまです。  
(父：一司、母：翼)



**鈴木悠悟 くん**  
(平成29年11月生まれ・本町)

いつもニコニコ笑顔のゆうくん。元気に大きくなあれ！  
(父：貴俊、母：美穂)



**小村夏楓 くん**  
(平成29年7月生まれ・久能)

暴れん坊な夏楓。いつもニコニコ元氣いっぱい育ててね☆  
(父：幸輝、母：奈津美)

お子さんの写真を募集中！ <対象> 0~3歳の市内在住のお子さん <応募方法> メール・電話で受付中。メールのタイトルを「今月の古河っ子応募」とし、本文に「お子さんの氏名(ふりがな)・生年月日・父母の氏名・住所・電話番号」を明記し、hisho.kouhou@city.ibaraki-koga.lg.jp(秘書広報課)へ申し込みください♪



わたしの夢

## 公認会計士を目指して これからも努力を

竹内涼さん 古河第一中学校3年生

私には公認会計士になるという夢があります。理由は私は珠算を習っていて、その中で得た知識・技能を生かせる仕事で公認会計士だと思ったからです。そのために私は、たくさんの知識を身につけつつ見解を広げ、努力を惜しまず勉強していこうと思っています。そして、夢を叶えてたくさんの人たちの役に立てるよう、今できることをこれからも頑張っていきたいと思っています。



# キラリ☆光輝く人たち

## 古河から全国に誇れるマンゴーを

そのべ **園部泰宏 さん**(大堤・43歳)

南国のフルーツのイメージが強いマンゴーの栽培を3年前から始めた園部さん。まだ生産量は少ないながらも、高い糖度のマンゴーを栽培しています。古河ではなじみの薄いマンゴー作りに挑戦する園部さんに、これからの目標を伺いました。



### 自分の好物のマンゴー

観葉植物の栽培を行う花卉農家としてオリーブやアカシアなどを中心に出荷している園部さん。マンゴーを栽培するきっかけは、自分の好物であるマンゴーを栽培すれば、好きなだけ食べられると思ったからと笑いながら話します。

当初は、古河での栽培にはなじみのないマンゴーを育てるためにはどんなものが必要なのか、分からないことが多く過ぎて苦労の連続だったと言います。

### 先輩からのアドバイス

悩む園部さんが頼ったのは、県内でマンゴー栽培をしている仕事仲間の先輩でした。農園を訪問し、どのような品種がいいのか、どんな設備が必要なのか、今まで分からなかったことをしっかりと教えてもらい、必要なことを一つずつ準備していきました。一番準備が大変な大型のビニールハウスは観葉植物栽培ですで使用していたので、新しく作らずに済んだのも想

定より早く試験栽培に入れた要因だったと言います。

### 試行錯誤の連続

3年前から始まった試験栽培。園部さんが選んだ品種は、アーウィンと呼ばれる宮崎県の「太陽のたまご」と同じもの。どうすればきれいな赤色になるのか、どうすれば糖度が高くなるのか挑戦と失敗の繰り返しながら求める品質に近づけていったと言います。

樹上で完熟したものをのみを収穫するため、マンゴーにネットを付けるタイミングなど細かなところにも気を付けています。

ネットを付ける時期が早いとマンゴーの実に網目の日焼けができてしまう、逆に遅いと地面に落ちてしまうリスクが高まるので判断が難しかったです。

### 宮崎県産に負けない品質を

園部さんが、栽培する際に心掛けてるのは全国に誇れるものを栽培したいという思い。「太陽のたまご」の糖度15度以上という基準に対し、



糖度が20度程度のものを継続的に収穫できていることからその品質の高さがうかがえます。そこには、宮崎県には無い昼と夜の気温差を利用し、徹底した温度と水の管理を行う園部さんの努力が垣間見えます。

今年から始まった本格出荷に合わせ、道の駅「まくら」が「のりこが」でも販売することが決まりました。これからさらに多くの人に、自慢の古河産マンゴーを食べてもらうため、もっと販路を広げたいと話す園部さんからは、強い覚悟と熱意が伝わってきました。